

# 被災市町保健活動支援の実際 とそこから見えた課題と提言

～保健活動支援チーム気仙沼チーム  
の取り組みから～



平成25年2月8日（金）  
気仙沼保健福祉事務所  
（気仙沼保健所）  
技師（保健師）  
高橋 祥恵

# 被災者への保健活動支援について

◆被災者の健康課題も時間の経過とともに変化する。  
→被災者への保健活動支援は、一過性のものでなく、長期的に継続的に行っていく必要がある。

◆市町村も県もマンパワーには限りがある。  
→同じ方向性・目的をもちながら、協働して活動することが重要である。

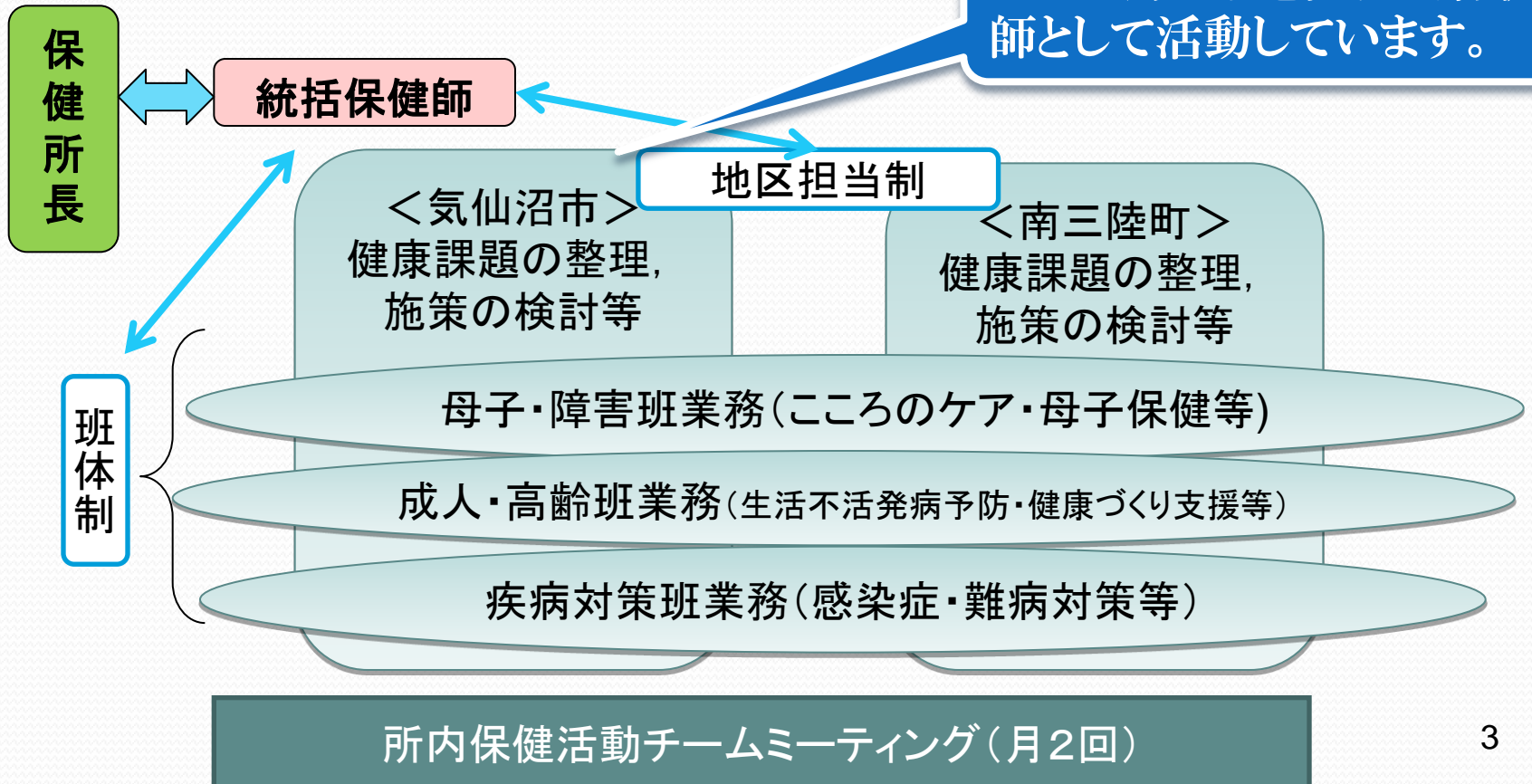


気仙沼市健康づくり担当課との協働体制の構築を目指し、気仙沼市地区担当保健師として活動したその成果と課題について報告する。

# 気仙沼保健所の支援体制（H23年7月～）

- 地区担当制での総合的支援
  - 班体制での業務別支援
- 複合的支援

H24.4月から地区担当保健師として活動しています。



# 保健活動支援チーム

## 地区担当保健師の役割

**【役割】市町保健活動全般に係る調整・助言，技術的支援，所内各班業務への繋ぎ等を行う。**

- 要援護者支援・被災者への健康支援対策（広域対応事例・対応困難な事例への支援）
- 仮設住宅・民間賃貸住宅入居者に係る健康調査の実施・健康課題分析，要フォロー者への対応等への支援
- 地域保健福祉部内各班業務との調整，助言（心のケア対策，サポートセンター運営支援，生活不活発病予防対策等）
- 災害時対応体制整備への調整，助言
- 生活環境衛生部門・企画調整部門との連携

# 気仙沼管内の現況

	年月	総人口	世帯数	高齢化率
気仙沼市	H23.3.1現在	73,154	26,601	30.1%
	H24.12.1現在	67,710	* 25,439	※30.5%
	増減	▲5,444	▲1,162	0.4%
南三陸町	H23.3.1現在	17,378	5,862	29.3%
	H24.12.1現在	14,805	* 4,769	※28.9%
	増減	▲2,573	▲1,093	▲0.4%
気仙沼 圏域	H23.3.1現在	90,532	31,963	30.0%
	H24.12.1現在	82,515	30,208	※30.2%
	増減	▲8,017	▲2,255	0.2%

参考)総人口は「宮城県推計人口(平成24年12月1日現在)より。

\* 世帯数は「平成24年(2012)11月末現在日本人住民基本台帳人口及び世帯数」より

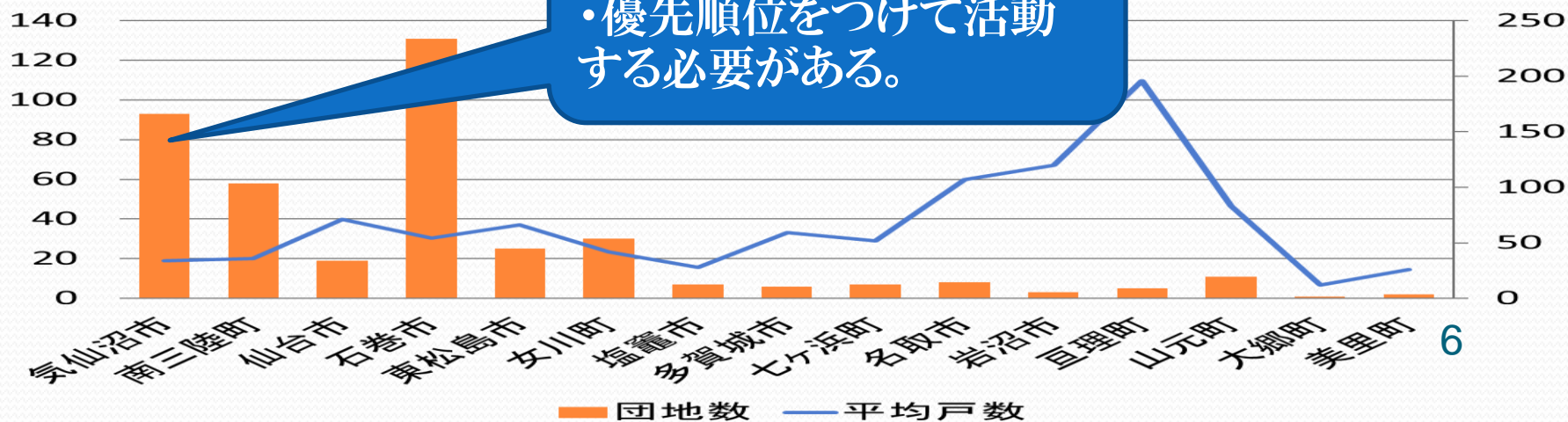
※高齢化率は、平成24年3月末現在高齢者人口調べ(長寿社会政策課)より。

# 仮設住宅状況 (H24. 11末)



	プレハブ型			民賃(3月末)	
	団地数	入居戸数	入居者数	決定件数	入居者数
気仙沼市	93	3,250	7,868	1,679	5,002
南三陸町	58	2,140	5,709	326	1,084
宮城県	406	20,992	50,427	26,056	71,054

- ・小さな仮設団地が多い。
- ・優先順位をつけて活動する必要がある。



# 市町村が抱える社会背景

個人主義的な考え方, 家族の崩壊, 地域社会のつながりの希薄化



生活上の様々な問題解決を, 専門職に依存する人が増加



専門職への過重な負担, 慢性的な人員不足



職員のストレス関連疾患, 燃え尽き症候群の懸念



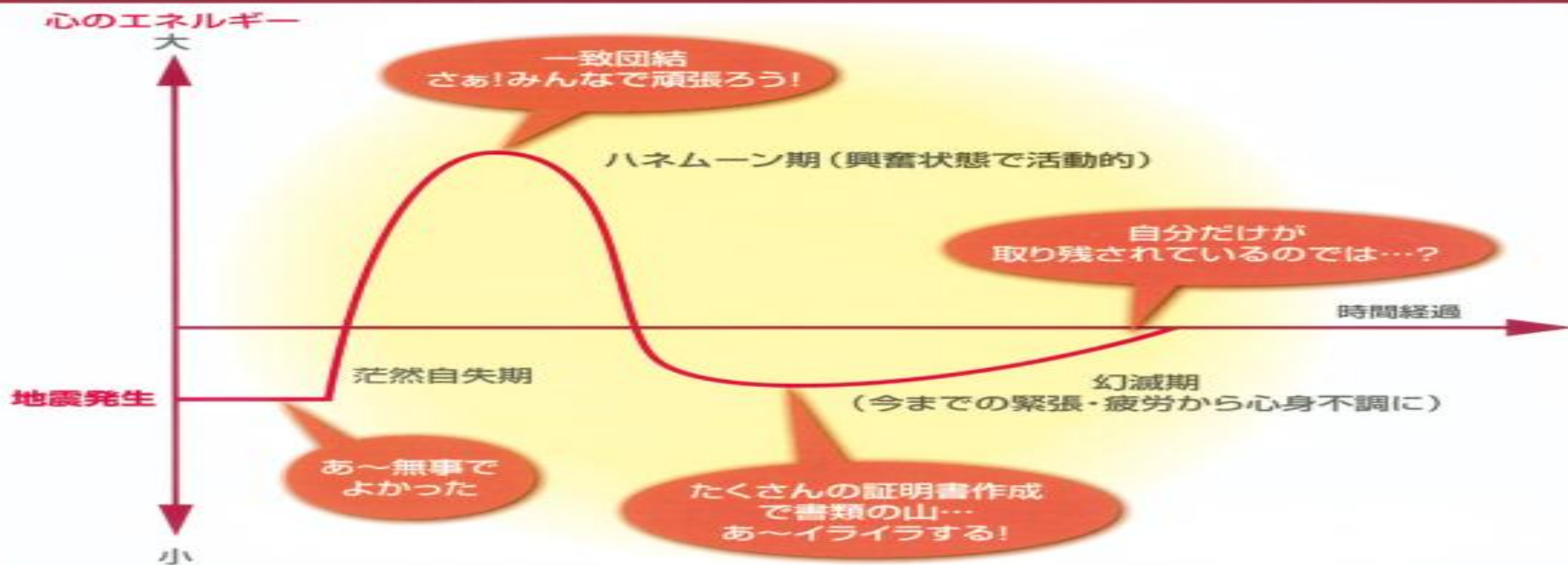
住民サービスの質の低下・施策力の低下



被災市町村への組織的支援が必要である。

# 災害後の経過と被災者の心の動き

## 心の回復の時間的経過



- ① 茫然自失期：災害発生後数時間から数日間
- ② ハネムーン期：災害発生数日後から数週間または数ヶ月間  
被災者は災害後の生活に適応したかに見える、被害の回復に向かって積極的に立ち向かい、被害者同士があたたかい連帯感で結ばれる。
- ③ 幻滅期：災害発生数週間後から年余～復興期  
マスコミが災害を報じなくなり、被災地以外の人々の関心が薄れる頃になると、被災者は無力感・倦怠感にさいなまれるようになる。



# 地区担当保健師としての 年度当初の感想

・地区担当保健師として、2名で活動(総括保健師、自分)

・一人で抱える業務量も多く、負担感が大きかった。

・これまでに総合的な介入が少なく、気仙沼市の状況がわからない。

・役割が不明確で、どこまで取り組めばいいのかわからなかった。

# 保健活動支援体制見直し（6月～）

## (1) 企画調整機能の拡充

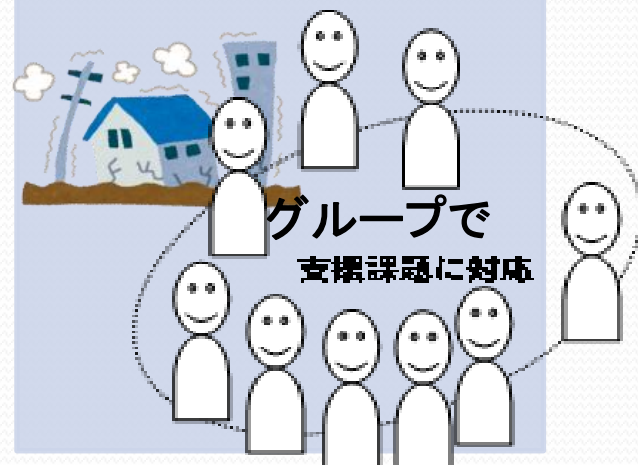
- 所内横断の調整チーム設置（保健師以外）
- 所内全体で対応する機運をアップ

## (2) 所内保健師全員を各市町担当として位置付け

- 2～3人で市町担当する体制を見直し。統括保健師以外の保健師全員が市町担当者。市町窓口担当を中堅保健師とした。

## (3) 市町担当のチーム体制を強化

- 担当市町チーム別の戦略会議開始



常時情報共有

# 地区担当制中心の活動体制

技術次長(総括担当) 1名

保健活動支援  
チーム

(内訳) 成人・  
高齢班

(内訳) 母子・  
障害班

(内訳) 疾病対  
策班

保健師実働10名(新採4名含む)

保健師10名

保健師1名

班長クラス1名,  
保健師4名

班長クラス1名,  
保健師3名

気仙沼  
チーム5名

市窓口保健師  
1名

保健師2名

市担当保健師  
リーダー1名  
保健師1名

南三陸町  
チーム5名

町担当保健師  
リーダー1名 町  
窓口保健師1名  
保健師1名

保健師2名

# 気仙沼市地区担当保健師として 心がけたこと

気仙沼市保健担当課との協働体制の構築を目指す。



①会う回数を増やす

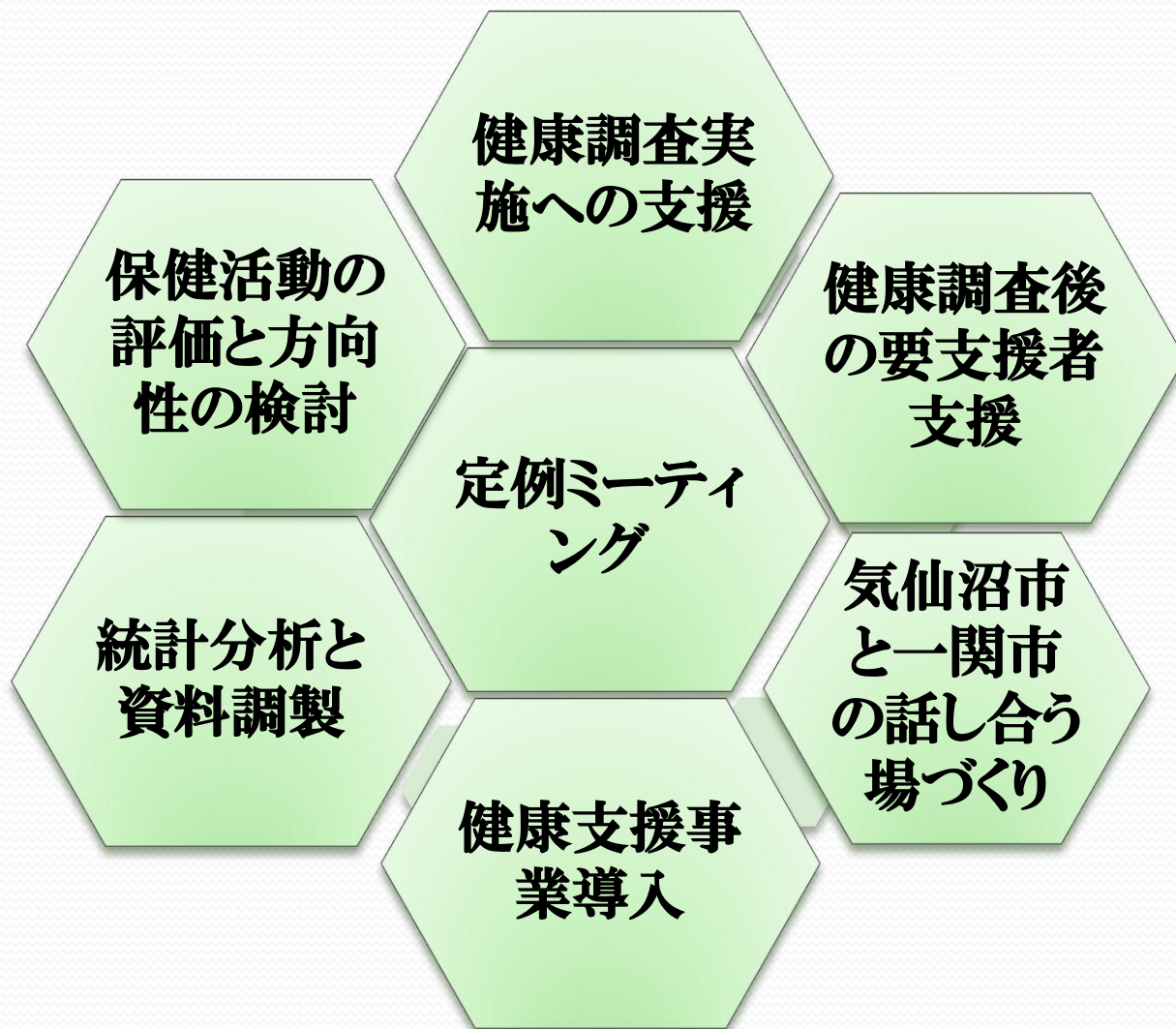
②定期的な話し合いの場づくり

③市が困っていること・課題と感じているところを把握する。

④具体的な支援を行う。

⑤振り返り・方策の検討へ

# 気仙沼市地区担当保健師としての 主な具体的な活動



# 大事にした3つの事業

①健康支援  
事業の導入



②健康調査



③定例ミーティ  
ングの開催



気仙沼市と気仙沼  
保健所の協働体  
制の構築

# 大事にした3つの事業

## ①健康支援事業

- ・ 導入のためのコアメンバー打合せ会の開催(5回)
- ・ 開始にあたっての全体会
- ・ 健康支援事業のスタート
- ・ 市内7団地、23回、183名の参加
- ・ 月1回評価・振り返りの会議
- ・ 市内で健康相談活動を行う関係者での情報共有会議

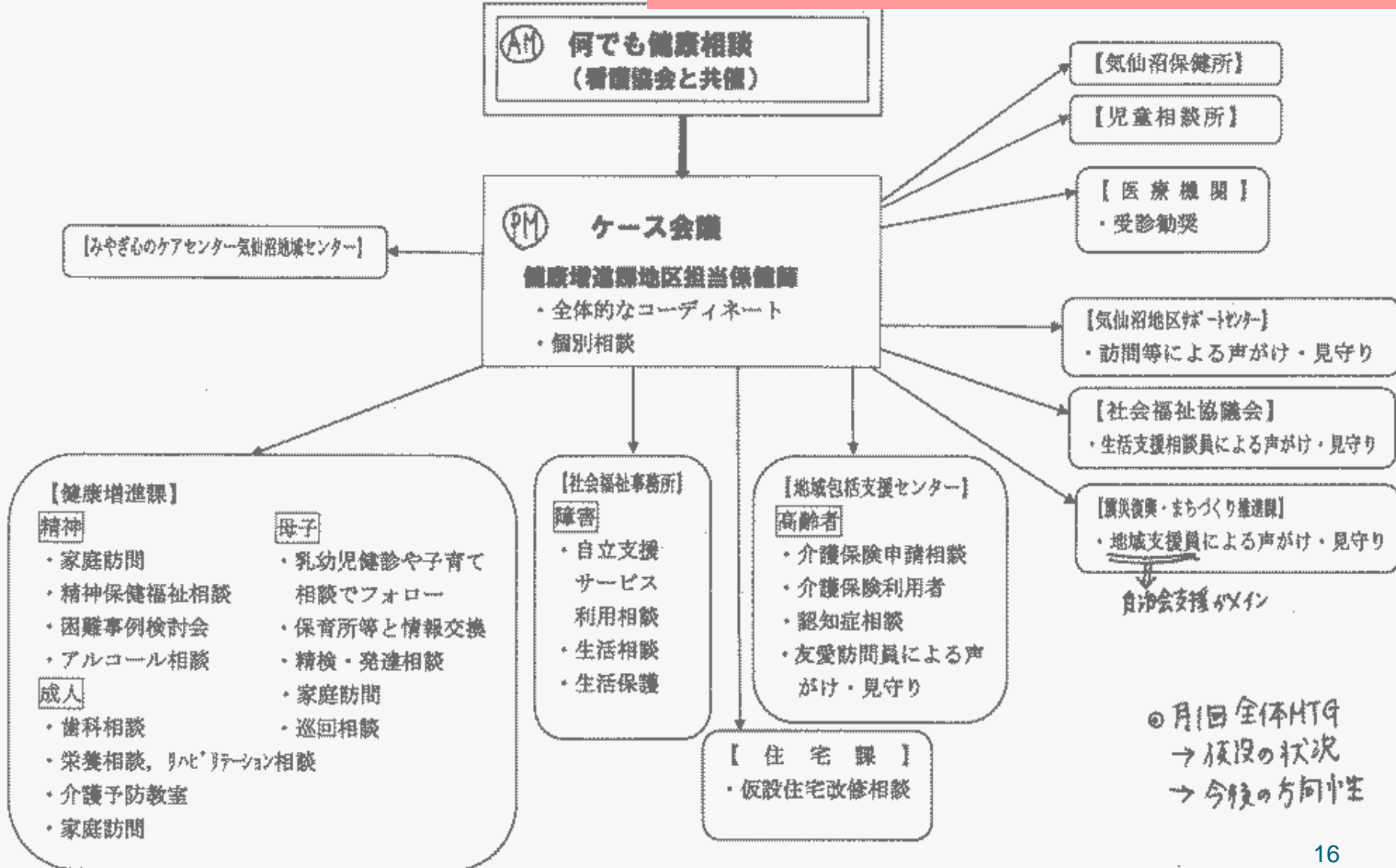
### 【結果】

打合せを繰り返すことで、関係機関との情報共有ができ、市の健康課題を意識した事業となった。



- 気仙沼市とともに検討し、作成
- 市の地区担当保健師の役割の明確化を行った。

＜健康相談からのフォロー体制の流れ＞





# 大事にした3つの事業

## ②健康調査

単なる健康調査ではない！

県庁からの情報提供・連絡調整

①健康調査の実施

県の指針について情報提供

②要確認者の基準設定

情報収集シートを市とともに検討

③市地区担当保健師による情報収集

保健所・心のケアセンターで協力

④訪問による状況確認

継続支援方法について検討

⑤継続支援

【結果】  
具体的な支援を行うことで、信頼関係を構築のきっかけになった。

# 大事にした3つの事業

## ②健康調査

### 応急期の健康課題

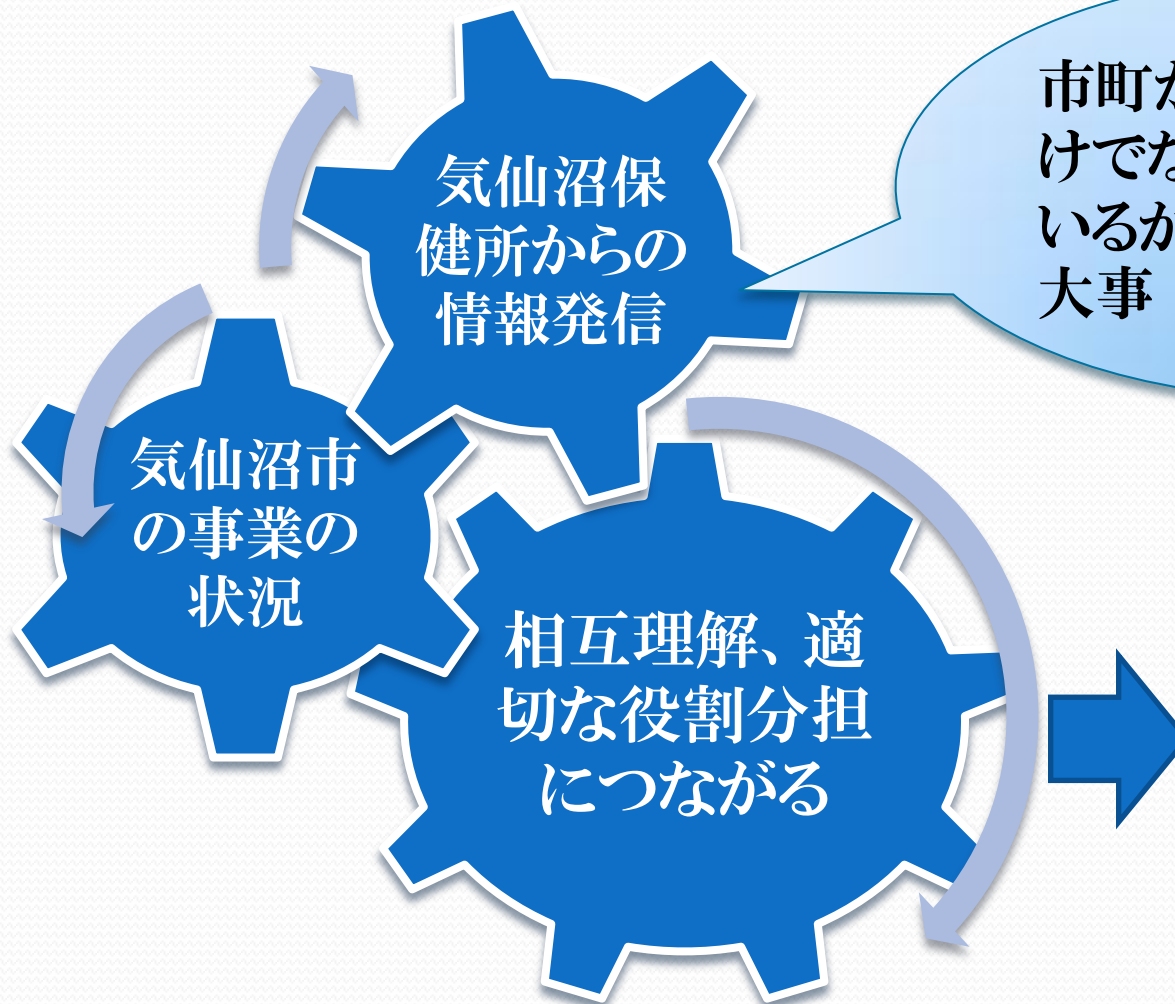
- 住宅被害の少ない地域に、縁故避難で要援護者が集中
- 避難所生活の長期化による身体機能の低下
- 避難所生活での食生活バランスの悪化
- 避難所生活の口腔環境の悪化（不衛生、甘い間食、義歯の喪失）
- がれき粉じんなどによる呼吸器症状
- 暑さによる害虫発生と悪臭、食中毒のリスク増加

### 復旧期の健康課題

- 時間の経過とともに、取り残され感の増幅。抑鬱症状の増加。
- アルコール問題、家族関係問題等の顕在化
- 支援者の心身の疲労
- 高齢者を中心に生活機能の低下
- 食生活の乱れ、運動不足、喫煙、飲酒量の増加などによる生活習慣病の発生
- 高齢者を中心に結核の増加
- 体重増加

# 大事にした3つの事業

## ③定例ミーティングの開催



# 【まとめ】地区担当保健師が設定されたメリット

- ①連絡窓口が明確になり、連絡調整が円滑に行えた。
- ②総合的に市の保健活動の状況や課題を把握し、ともに検討することができた。
- ③担当業務以外の課題や事業の意識が高まり、横断的に俯瞰して健康課題を把握することができた。
- ④市のニーズ、市庁内との関係、市内部での活動体制をより身近に捉えることができた。
- ⑤様々な場面で専門的・広域的な情報提供・助言を行うことができた。

# 【まとめ】所内横断的なチームが設定されたメリット

①所属する班が違うメンバーが連携することで、市の健康課題とその背景、事業内容を共有化することができた。

②組織として取り組んでいる意識をもつことができ、気持ち became 楽になった。

③所属する班以外の先輩保健師からも助言を受けながら活動することができ、人材育成にもつながった。

④苦勞していること、あるべき姿を皆で話す機会があったことで、その中で自己研鑽、新たな方向性を見いだすことができた。

# 成果

当所  
として

気仙沼市健康づくり担当課と、健康課題について話し合う  
場面、関係性ができた。

市とし  
て

気仙沼市保健活動分野でも、横断的な話し合いの場が増  
え、情報共有が進んだ。

当所・  
市とも  
に

気仙沼市の健康課題を通して、所内の情報共有がしやす  
くなり、対策を考えることができた。



気仙沼市と気仙沼保健所が同じ方向性で  
被災者への保健活動が行えるきっかけができた。

# 今後の課題

- 災害時保健活動は、現在も継続している。
  - 長期的・継続的な支援体制の構築
  - 変化する健康課題に応じた被災者支援への対応
  - 健康調査でみえない被災者の声の把握と支援
- 平常時の県保健師の市町村（地区）担当制の導入
  - 地域を総合的にみる力の養成
  - 県・市町村との協働経験が平常時から必要

ご静聴ありがとうございました。

